

お茶の本場、京都・宇治にて 「宇治茶漬け」誕生。



この秋、京都・宇治市に新たな「当地グルメが誕生します。宇治市といえばやっぱりーな「宇治茶」の中からお茶漬けに合う煎茶、玄米茶、焙じ茶、抹茶…様々な茶葉を吟味して開発された地元店主たちこだわりの「宇治茶漬け」。どうぞ召し上がり。

「もっと宇治らしくて美味しいものを」と誕生した「宇治茶漬け」。軸にする食材に「宇治茶」を選択すること。それは同時に、日本茶の可能性を追求する作業で、開発に取り組む商店主達も改めて日本茶について学んだのだそう。

平等院は、昨年に鳳凰堂の「平成の大改修」を終え、創建時の姿に最も近付いています
宇治上神社の本殿や拝殿は、1000年以上存続されており、日本最古とも伝えたいたい：日本茶文化の継承への想いがあつたからです。
宇治茶の本場・宇治のおもてなしの心が生んだ各店こだわりの「宇治茶漬け」。お茶も想いも熱々です。



▲宇治の商店主が何度も集まり試作を重ねた自信作が商品化!

いいところです、宇治。

お茶の本場として全国的に有名な宇治。宇治川の両岸には世界文化遺産に指定される神社仏閣。そして秋は紅葉が美しく彩る山並みなど、京都でも特に風光明媚な観光の名所です。



平等院は、昨年に鳳凰堂の「平成の大改修」を終え、創建時の姿に最も近付いています
宇治上神社の本殿や拝殿は、1000年以上存続されており、日本最古とも伝えたいたい：日本茶文化の継承への想いがあつたからです。



宇治は源氏物語の舞台。宇治市源氏物語ミュージアムは、華やかな王朝文学の世界を体験できます

宇治の名がつく「宇治茶」とは。

京都の名産品＝宇治茶。お土産品としても宇治茶は高い人気を誇ります。京都府茶業会議所では下記のように宇治茶を定義。13世紀まで遡る長い歴史の中で、茶葉の栽培だけでなく、加工やフレンド技術をも発展させた宇治は、多様な高品質な茶の生産を行なう、名産地としての地位も確固たるものになります。「日本茶」の歴史の中ではなくてはならない場所と言えるでしょう。

【宇治茶の定義】

「宇治茶は、歴史・文化・地理・気象等総合的な見地に鑑み、宇治茶として、ともに発展してきた当該産地である京都・奈良・滋賀・三重の四府県産茶で、京都市内業者が府内で仕上加工したものである。」



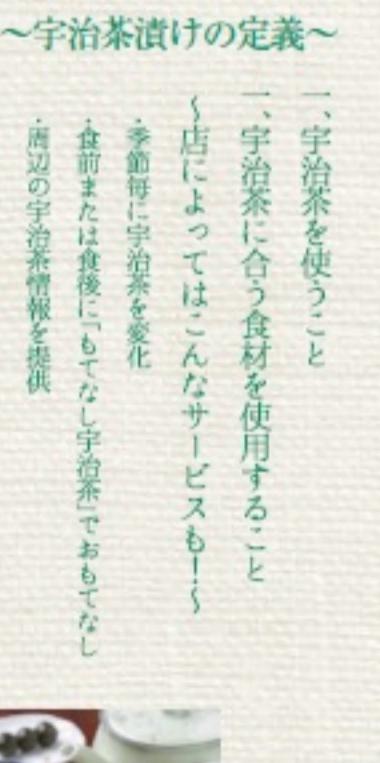
▲毎年10月第1日曜に宇治茶まつりを開催。宇治茶の盛りを祈願する



▲「宇治の奥座敷」と呼ばれる、自然豊かな宇治白川地区は、茶畠が広がる茶葉の生産地

新ご当地名物「宇治茶漬け」、つまりこういうこと。

みんなで決めた定義を守り、開発・提供されるメニューだけが「宇治茶漬け」として認定。料理人の、努力とおもてなしの心を詰めた「当地グルメです。



- 一、宇治茶を使うこと
- 二、宇治茶に合う食材を使用すること
- く店によつては、こんなサービスもーく
- 季節毎に宇治茶を変化させ前または食後に「もてなし宇治茶」でおもてなし
- 周辺の宇治茶情報を提供



【JR宇治駅】大阪駅よりJR京都線新快速で京都駅下車(27分)→JR奈良線に乗り換え快速で宇治駅まで(17分)

【近鉄小倉駅】大阪:大阪難波駅より近鉄奈良線で大和西大寺駅下車(28分)→近鉄京都線に乗り換え普通で小倉駅へ(41分)
京都:京都駅より近鉄京都線で小倉駅へ(18分)

【JR宇治駅】大阪:近鉄難波駅より近鉄奈良線で中書島駅下車(39分)→京阪宇治線に乗り換え普通で宇治駅まで(14分) 京都:三条駅より京阪本線特急で中書島駅下車(13分)→京阪宇治線に乗り換え普通で宇治駅まで(14分)

